

製品名: TGFB2 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM86048**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む TBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:100-1:500,ICC 1:20-1:50
分子量	47.7kDa

抗原情報

遺伝子名	TGFB2
別名	Transforming growth factor beta-2, TGF-beta-2, BSC-1 cell growth inhibitor, Cetermin, Glioblastoma-derived T-cell suppressor factor, G-TSF, Polyergin, Latency-associated peptide, LAP, TGFB2
遺伝子 ID	7042.0
SwissProt ID	P61812
免疫原	この TGFB2 モノクローナル抗体は、TGFB2 組み換えタンパク質で免疫化されたマウスから生成されます。

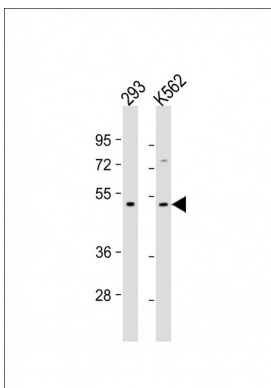
背景

この遺伝子は、サイトカインの一種であるトランスフォーミング成長因子ベータ（TGFB）ファミリーのメンバーをコードします。TGFBは、膜貫通型I型受容体およびII型受容体（TGFB_{R1}およびTGFB_{R2}）と、それらの下流エフェクターであるSMADタンパク質の組み合わせを介してシグナルを伝達することにより、多くの細胞種において増殖、分化、接着、遊走などの機能を制御する多機能ペプチドです。TGFB/SMAD経路の破綻は、様々なヒト癌に関連していることが示唆されています。コードされているタンパク質は分泌され、インターロイキン-2依存性T細胞の増殖を抑制する作用があります。この遺伝子とHDAC9間の転座t(1;7)(q41;p21)は、前眼房の先天性欠損であるピーターズ異常と関連しています。この遺伝子を欠損したノックアウトマウスは、周産期死亡率が高く、心臓を含む様々な発達異常を示します。異なるアイソフォームをコードする、選択的スプライシングされた転写変異体が特定されています。

研究分野

TGF- β シグナル伝達経路、MAPKシグナル伝達経路

画像データ



全レーン：1:500～1:1000希釈の抗